

## 人権保育専門講座 8

「各園における人権保育を推進するために」  
～園内の人権保育推進のために家庭支援推進保育士・教員の役割を考える～



### 講座③

#### 『新しい一步を踏み出す』

～家庭支援推進保育士・教員としての次の一步を考えよう～

常磐会短期大学 教授 卜田 真一郎さん

専門性を高める研修会として、家庭支援推進保育士の方を中心とした連続講座の3回目を開催させていただきました。県内各地から総勢46人の参加があり、3回目も熱心な研修会となりました。

テーマを『新しい一步を踏み出す』～家庭支援推進保育士・教員としての次の一步を考えよう～ということで、家庭支援推進保育士・教員として、人権保育推進に向けて「誰に」「何を」「どのように」発信していくのかを実践的に考え合いました。



### ～ト田先生のお話より～

#### 1 「発信」の意味と必要性について

##### (1) 「保育業界の常識」は共有されているか？

保育のあり方をめぐり、文科省や教育再生実行会議などで論議されていますが、皆さんは知っていますか？

文部科学省は次期学習指導要領の改定で、**現行の小学1年生の学習内容の一部を幼稚園や保育所での教育・保育内容に移行させる検討を始めます。**

・幼稚園教育要領と保育所保育指針に、小学1年の学習内容の要素を取り込むことを検討する。絵本などの普及で5歳児の識字率が上がっているため、国語のひらがなの読み書きのほか、算数の足し算、引き算も検討対象にする。(文科省)



幼児教育の充実、無償教育、義務教育の期間の延長等。  
(教育再生実行会議)

全ての子供に質の高い幼児教育を保障するため、無償教育、義務教育の期間を見直す。(教育再生実行会議)

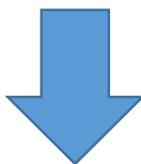
考えなくてはならないことは・・・

- \* 本当の意味で「質の高い幼児教育・保育」とは何かということ、乳幼児教育・保育の立場からきちんと議論をすること。
- \* 豊かな実践に基づく発信を行うこと。

## (2) 人権保育実践における「発信」の意味

「発信」の意味と必要性について

「発信」がめざすものは、人権保育を進めるためのつながりを広げることであり、協働できる「仲間」としての関係を作り出すことではないか？



### 教職員集団への発信

- 「効果のある学校」における教職員集団のチームワークと理念の共有
- 保育者の人権感覚が子どもの人権に及ぼす影響（乳幼児期の人権の特殊性）

### 保護者や地域への発信

子どもの人権力の育ちは、保育現場の中だけで行われているのではない。

保育者がひとりの子どもにかかわるのが数年間であるのに対して、ほとんどの保護者は全児童期にわたって子どもを教育するということから考えても、保護者の影響は、子どもの人権を大切にする心の育成にとって重要なファクターとなる。

#### ダーマン・スパークスが提起することによると・・・

- ・保護者への働きかけをめきにして、効果的な人権保育のカリキュラムは考えられないとし、「保育者が何か新しい、論争や議論を招くような教育的な仕事をしようとしても、もし親のことを考慮に入れないならば、自ら失敗を招くようなもの」だと述べている。
- ・人権保育の目標が達成されるためには、人権保育カリキュラムの根本的な価値観に同意を示す親との協働が必要である。しかし、「カリキュラムに対して批判的な親がいる場合は緊張状態が」生まれてしまうので、「率直なコミュニケーションをはかって、保育者と親の双方が同意できる解決法」を探る必要がある。したがって、「親と保育者が、お互いの見解について打ちとけて話し合えるような真の対話を樹立し、明瞭性、理解、そして、親と保育者がともに納得のいく解決法を得るよう努める」ことを目標として掲げている。



\* 人権保育の推進のためには保護者との協働が必要

\* そのためには保育者と保護者の合意形成に向けての対話関係の樹立は重要なファクターとなる。

## 2 「発信」の方法を考える

### (1) 「正確に知る」こと

- 人権の問題であっても、その他の問題であっても、「事実を正確に知る」ことが非常に重要。
- 同様にその事実の背景を正確に知ることも重要。

例えば…

文化の違いによる価値観の違い

LGBT (\*) と自尊感情の関係

\* 性的マイノリティの人々



### (2) 「発信」のために何を考えるか

- ① 誰に
- ② 何を (発信するテーマ)
- ③ 何のために (その取り組みの目標、そして子どもたちにどのように繋がるのか)
- ④ どのように (発信の方法)

→上記の視点を参考にしながら、グループ討議を通じて、自分自身が何を次の一歩として「発信」するのかを考えてみましょう。

#### ① 「誰に」を考える

各現場の現状を考え、誰に向けての発信が必要かを考えてみましょう。

保育者？ 保護者？ 地域の人々？ 子ども？ それとも・・・

#### ② 「何を」を考える

発信したいこと (内容) は何かを考えてみましょう。

- 人権保育の内容について
- 子どもの姿に関わって
- 社会的な問題に関わって
- おとなの関係に関わって などなど・・・

#### ③ 「何のために」を考えるために

「発信」が何を指すのかを考えてみましょう。

- 職員集団への発信であれば、職員集団の人権力を高めることが基本になります。具体的に、どのような人権力・気づきを大切にしたいのかを考えて、取組の目標を明らかにしましょう。
- 保護者や地域への発信でも、人権の視点から、どのような目標を立てるのかを考えてみましょう。

#### ④「どのように」を考える

- ・保育の中で？ ・文書で発信？
- ・話し合いの機会を持つ？その時のテーマは？
- ・日常的な関わりの中で？

#### ⑤こんなことも考えてみましょう

- ・保護者の声の多様性への理解。（例えば、保育行事を巡っての多様な声の交錯）
- ・保育内容を巡っての保育者間での対話、それを通じて保育者の人権感覚を鍛えること。
- ・保護者と保育者、保育者間、保育者と地域などの対話的関係の樹立。

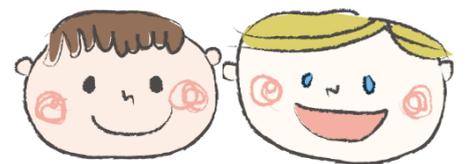


#### アンチ・バイアス・カリキュラムにおける「親とともに人権保育に取り組む」ための目標

- ・幼児がどのようにして、人種的、民族的、性的アイデンティティを発達させるのか、偏見や差別が、健全な社会的・情緒的発達や認知発達に与えるマイナス影響に対する親への情報提供。
- ・親が子育てに人権尊重の視点を取り入れて、その考え方を自分のものとしていく能力を高める。
- ・親と保育者が互いに問題解決を行い、相互に支援し合うことをとおして、子どもの発達を促す。
- ・カリキュラムの開発・実施・評価への親の参加の要請。

### 3 グループで話し合ってみましょう

～未来へ向けての「次の一歩」の種を蒔きましょう～



まず、次のことを考えてみましょう

- ① 誰に
- ② 何を（発信するテーマ）を考えてみましょう。

そのために、「なぜ、それを発信しなければならないのか」という問題意識を明らかにしてみましょう。

#### グループで話し合ってみましょう

- ・「①誰に」を考えて、同じ対象に発信したい人で集まってグループを作りましょう。（3～5人程度）
- ・グループ内で、「どのような課題があって、何を発信したいのか」を共有してみましょう。また、ここで、悩みを出し合ってもいいと思います。
- ・そのための方法について、それぞれの実践や経験などを出し合いながら、深めていきましょう。

## グループ討議を受けて

- ・各現場での「発信」に繋がる実践アイデアを共有したり、悩みの共有と相談したりすることを通して、各自の「次の一歩」を考えましょう。
- ・「次の一歩」はどんな小さなことでも構いません。また、発信のために「自分はこんなことを学びたい」でも構いません。実現可能な次の一歩を考えてみましょう。

子どもと楽しむ  
遊びをさがします！  
環境や声かけなど  
考えるきっかけもフリカヒです。

保護者との関係の中で、十分に  
話を聞き、日々の頑張りを  
受けとめていき「こい」。  
その中で少しずつ子供の弱さや  
不安な所を伝え 共に考えて  
いき「こい」。

今(日々)の保育が音階差別  
をなくすことを忘れない。  
に繋がっていること  
そのためにも どうしてなのかな  
なぜなのかな常にふり返り  
考えることを大切に  
したい。

## 「未来への種まき」ワーク

- ・一人ひとりが「次の一歩」としてやってみようと思うことを考え、「人権保育実践展開のための『種』」を蒔きましょう。
- ・まず、配布された紙に、一人ひとりの「次の一歩」を書いてみましょう。
- ・全体で輪になり、その小さな種を読み上げて、輪の真ん中にある「畑」（模造紙）に蒔きましょう。



## 3回の人権保育専門講座のおわりに・・・

3回の人権保育専門講座で、各現場の現状を「共有」し、実践を「交流」し合うことを通じて学びあってきました。

- ・同じ三重県内であっても、地域の状況が異なれば、人権保育推進のための課題は異なります。しかし、一人ひとりの子どもが輝く保育、共生社会の担い手として育つための保育をめざすという根本は共通しているはずです。
- ・誰もが生き生きと暮らせる社会をめざして、まずは、本日蒔いて頂いた「種」が、やがて葉をつけ、花を咲かせること、先生方が豊かな実践を展開してくださることを願って、今年度の交流会を閉じたいと思います。

## 参加者のみなさんの感想のいくつかを紹介します！



- 自分自身を振り返ること。仲間（同じことを感じ悩んでいる）がいることを知りよかった。
- 先生の話をもとに、色々な園の先生と話ができ、明日からまた頑張ろうと思える力をいただきました。
- 各園の先生方から、様々な取組や意見を聞くことができ、具体的な手立てが見えてきました。

- いつも人権の講座に参加すると、自分と向き合えて、自分の思いをはっきりとすることができ、自分が何をすべきか、どうしていくと子どもが心地よく生きられるかを考える良い機会になります。
- 前回の種まきが、次への一步として考え、実践につながっていけると思いました。これを忘れずに、日々、生活していきたいと思えます。共有・交流・発信というテーマがあって、とても分かりやすかったです。
- グループ討議で、同じように悩んでみえて、頑張ってみえる先生方の話が聞けて、心強く元気をもらえました。自分も、もう少し頑張ってみようと思えました。3回連続講座で、色々考える機会となりました。ありがとうございました。
- 自分が働いている地域とはまた別な地域の方々と話すことができ、実状や考え方等の違いに触れる機会となりました。色々自分にも課題をいただけた研修となりました。
- グループ討議の中で、経験がまだまだ少ない私自身に、たくさんの先輩から意見、アドバイスをいただいたことで、たくさん学ぶことができました。
- 3回の連続講座だったので、1つ1つのステップで考えることができ、よかったです。
- 他園の取組を聞かせていただき、自園で発信する、それが自分の人権感覚を高めることになります。自園だけでは、気づいていないことに気づくことができ、この交流の場を有意義に感じます。
- 3回に連続性があるって、振り返ることもでき、よかったです。推進保育士が集まる場がとても少ないので、回数を増やして欲しいくらいです。
- ここに来ると必ず、翌日、絶対にこれをしようと思う「次の一步」が探せました。もちろん実行できました！！ついつい色々なことを考えて、消極的になってしまっていますが、まずはTRYすることで、必ず次の二歩目につながると感じました。
- 様々な状況の先生と話さず、新たに気づくことや学ぶこともたくさんありました。そして、前向きな気持ちになりました。ありがとうございました。
- 講座に参加させてもらう度に、家庭支援推進教員として、という自分の立場やねらい、大切なことを振り返る機会となりました。講座の中でのお話や、ファシリテーションの手法を、園内でも活用して、人権保育の推進をしていきたいです。